

News Release

2015年12月4日
株式会社野村総合研究所

「NRI 学生小論文コンテスト 2015」の入賞者が決定
**～ 2030年に向けた「医療」「大学教育」「政治」の
制度改革を題材にした3作品が大賞に ～**

株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役会長兼社長：嶋本 正、以下「NRI」）は、“2030年に向けて—「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」”をテーマとした、「NRI 学生小論文コンテスト 2015」の最終審査を行いました。大学生・留学生・高校生を対象とした3つの部門で過去最多となる合計2,622作品の応募があり、厳正なる審査の結果、その中から大賞3作品、優秀賞5作品、特別審査委員賞3作品が選出されました。

審査は、初めにNRIグループの社員120名が手分けして一次審査を行い、そこで選ばれた論文の中から、池上彰氏（ジャーナリスト・東京工業大学教授）と最相葉月氏（ノンフィクションライター）の2名を特別審査委員に迎えた最終審査会において、入賞作品を決定しました。



（最終審査会の様子）

■ **入賞論文タイトルおよび受賞者**

【大学生の部】

大賞

○人に寄り添う医療を目指して—2030年へ向けた医療改革の提言—

岡口 和也（おかぐち かずや）さん（宮崎大学医学部 1年）

岡口 正也（おかぐち まさや）さん（東京大学法学部 3年）

優秀賞

○地域力結集で実現する『中継ぎ保育』の拡充

岩間 優（いわま ゆう）さん（東京医科大学医学部 3年）

- 日本のベンチャー市場の活性化にむけて 武者修行退職制度の導入
宮生 侑祐 (みやお ゆうすけ) さん (慶應義塾大学経営管理研究科 修士2年)

特別審査委員賞

- 公共オンブズマンの設置～市民の政治参加の架け橋～
松本 淳志 (まつもと あつし) さん (東京大学法学部 3年)

奨励賞 9作品 (10名)

【留学生の部】

大賞

- 問題解決学科 ―「守破離」の精神から
李 超君 (り ちょうくん) さん
(北海道大学経済学研究科 修士1年) 中国

特別審査委員賞

- デジタル遊牧民は電気羊の夢を見るか ―選択代行時代への移行
朴 知遠 (ぱく じおん) さん (一橋大学社会学研究科文部科学省国費研究留学生 1年) 韓国
- 中国留学生から見た青森県の地域活性化について
金 春海 (きん はるみ) さん (弘前大学人文社会科学研究科 修士2年) 中国

奨励賞 3作品 (3名)

【高校生の部】

大賞

- 「地方院」構想 ―民主主義と地方を守り、無意味な議会を壊し、私たちの議会を創る―
橋本 康平 (はしもと こうへい) さん (宮崎県立宮崎大宮高等学校 1年)

優秀賞

- 世界に目を向けさせるために、「世界問題」の授業を行おう
近藤 柚香 (こんどう ゆか) さん (千葉県私立市川高等学校 2年)
- 日本で本当にグローバルな人材を育てるには
江橋 朱里 (えはし あかり) さん (The Hills Grammar School 2年)
- 2030年バイキング式社会の実現へ向けて
金 道慶 (きん とぎょん) さん (神戸朝鮮高級学校 3年)

奨励賞 22作品 (22名)

■ 学生小論文コンテストに込めた想い

このコンテストは、NRIがCSR（企業の社会的責任）活動の重点テーマとして掲げる「次世代の社会を担う人づくり支援」の一環として、2006年から毎年開催しており、今回で10回目となります。これからの社会を担う若者に、日本や世界の未来に目を向け、考える機会を提供することを目的にしています。

今回は、弊社創立50周年記念事業の一つとして、開催しました。応募テーマも他の創立50周年事業と整合をとり、“2030年に向けて－「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」とし、3部門（大学生の部、留学生の部、高校生の部）の共通テーマに設定しました。

多くの学生の皆さんが、このテーマに取り組み応募していただきました。ありがとうございました。

審査委員による総評ならびに、各入賞論文の評価ポイントについては、【ご参考】をご覧ください。

大賞・優秀賞・特別審査委員賞を受賞された方の表彰式は、12月25日（金）に都内のホテルで開催する予定です。また、受賞者による論文発表を予定しています。

奨励賞受賞者については、以下をご参照ください。

<http://www.nri.com/jp/event/contest/result/index.html>

応募論文の部門別内訳

応募論文総数	大学生の部	留学生の部	高校生の部
2,622	158	21	2,443

【ニュースリリースに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 清水、坂（ばん）

TEL：03-6270-8100 E-mail：kouhou@nri.co.jp

【コンテストに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 「NRI学生小論文コンテスト2015」事務局 安居、中沢

TEL：03-6270-8200 E-mail：contest2015@nri.co.jp

【ご参考】

●審査委員による総評

今から 15 年後の 2030 年。いま高校生や大学生である若い人たちが、社会の中核となつて活躍している時代。若い人たちは、日本そして世界の未来社会はどんな姿であつてほしいと考えるのだろうか？ そして、そのありたい未来社会の実現のためには何を「守り」、「壊し」、「創り」、そこに自らどのように関わっていきたいと思うのだろうか？

ーこのような想いから、未来を切り拓くようなオリジナリティにあふれた提案を期待して、審査にあたりました。

今年の特徴として、総じて高校生と大学生の作品のレベルが高く、力作が多く見られました。特に高校生の作品には読み応えがある論文が多くありました。また、選挙権年齢の 18 歳への引き下げの影響からか、高校生の部で政治に関連したテーマを扱う作品が増えた点も特徴的でした。

留学生の作品には、グローバルな視点を持ちながらも、自分の足元をしっかりと見据える視線があり、日本に暮らしていることが学びの土台になっていることが感じられました。また、日本の長期的なポテンシャルに言及する論文が多く見られたことも、印象的でした。

全体的に、従来の作品のスケールに収まらないような、「その人にしか書けない」オリジナリティあふれた作品が多数選考に残っていた点も、強調したいポイントです。

「こんな 2030 年にしたい」という目指す社会の姿への夢を、「守る」、「壊す」、「創る」という枠組みを踏まえて論じることは、大変難しかったと思います。この枠組みをベースにしながら論理を展開し、独自性のある斬新な提案をしている作品が、今回の入賞論文になったと考えています。

●各入賞論文の評価ポイント

【大学生の部】

●大賞

人に寄り添う医療を目指して—2030 年へ向けた医療改革の提言—

岡口 和也（おかぐち かずや）さん（宮崎大学医学部 1 年）

岡口 正也（おかぐち まさや）さん（東京大学法学部 3 年）

（評価のポイント）

「かかりつけ医」というテーマはこれまでも扱われてきているが、かかりつけ医制度を“グループ医”で担うというアイデアには独自性があり、それによって目指す社会を明確に描き出している点を高く評価した。報酬体系や人材確保など、実現に向けての課題についても綿密に考察が加えられており、納得感がある。医学生として自らなりたい姿を表明している姿勢も、審査員の共感を集めた。

●優秀賞

地域力結集で実現する『中継ぎ保育』の拡充

岩間 優（いわま ゆう）さん（東京医科大学医学部 3年）

（評価のポイント）

独自のインタビュー調査を行って、「働く母親」のニーズを把握し、それを地域の中の「中継ぎ保育室」という提案に結びつけていて説得力がある。育児支援を出発点にしながら、学生の活用、地域の活性化、自身が医学生であるという立場から医療との連携など、アイデアに富んだ具体的な提案の内容が優れていた。

●優秀賞

日本のベンチャー市場の活性化にむけて 武者修行退職制度の導入

宮生 侑祐（みやお ゆうすけ）さん（慶應義塾大学経営管理研究科 修士2年）

（評価のポイント）

2030年に向けて、日本の成長のためにはベンチャー企業の活性化が欠かせないという視点に立ち、大企業とベンチャー企業間の人材の流動化を促進する「武者修行退職制度」という提案は独創性に富んでいる。大企業、ベンチャー企業、社員、すべてに対して価値ある提案であり、実現可能性の高さも感じられる。

●特別審査委員賞

公共オンブズマンの設置～市民の政治参加の架け橋～

松本 淳志（まつもと あつし）さん（東京大学法学部 3年）

（評価のポイント）

政治への信頼を取り戻し、社会における当事者意識を育むシステムとして「公共オンブズマン」の提案は興味深い。その役割や機能について具体性に富んだ設計がされており、実現への期待感を抱かせる。問題設定や考察のプロセスも鮮やかで、疑問が次々と解決される文章運びも高く評価された。

【留学生の部】

●大賞

問題解決学科 — 「守破離」の精神から

李 超君（り ちょうくん）さん

（北海道大学経済学研究科 修士1年）中国

（評価のポイント）

将来の日本にとって必要な、問題意識を持った人材を育てるための、大学教育における「問題解決学科」の提案は実効性が高い。提案の根拠を丁寧に述べており、学科の設計もきわめて具体的である点を、高く評価した。文章力と論文としての完成度の高さに対して、審査委員の高い評価が集った。

●特別審査委員賞

デジタル遊牧民は電気羊の夢を見るか ―選択代行時代への移行

朴 知遠（ぱく じおん）さん（一橋大学社会学研究科文部科学省国費研究留学生 1年）韓国
（評価のポイント）

まずタイトルからしてユニークであり、問題意識や着眼点も興味深い。文章の上手さで読ませる力がある。2030年の未来を予測して、さらに進行したデジタル化の中で、考える力や周りへの関心といった「人間らしさ」を守らなくてはならない、という主張が印象的であった。

●特別審査委員賞

中国留学生から見た青森県の地域活性化について

金 春海（きん はるみ）さん（弘前大学人文社会科学研究科 修士2年）中国
（評価のポイント）

青森県産のりんごを出発点にしつつ、青森と世界という複眼的な思考が興味深い。留学生として青森で生活する筆者にしか書けない、実感に基づく具体性に富んだ記述や、図表を用いた考察が実にユニークである。中国での取材、アンケート、インタビューなど、多様な調査を実施した積極性も評価に値する。

【高校生の部】

●大賞

「地方院」構想 ―民主主義と地方を守り、無意味な議会を壊し、私たちの議会を創る―
橋本 康平（はしもと こうへい）さん（宮崎県立宮崎大宮高等学校 1年）

（評価ポイント）

1票の格差問題や地方自らが行う「地方分権」の必要性など、政治への問題意識を踏まえて、参議院に代わる「地方院」創設を提案。その提案には斬新さ、ユニークさが感じられると同時に、地方院の設計は具体性に富み、実現性が高い点も評価した。高校生の立場から、日本の政治を良くしたい、地方の声をもっと国政に届けたいという強い想いが感じられた。

●優秀賞

世界に目を向けさせるために、「世界問題」の授業を行おう

近藤 柚香（こんどう ゆか）さん（千葉県私立市川高等学校 2年）
（評価ポイント）

義務教育において学年ごとに世界で起こっている問題を学び、世界に対する視野を段階的に広げていくという「世界問題」の教科の提案は、非常に論理的に組み立てられているプロジェクトであり、日本の教育を変える実効性がある。主張の明快さ、ユニークさ、具体性など、論文としてのまとまりや完成度の高さも、高い評価につながった。

●優秀賞

日本で本当にグローバルな人材を育てるには

江橋 朱里（えはし あかり）さん（The Hills Grammar School 2年）

（評価ポイント）

自己の留学生活における観察や体験に基づき、グローバル人材の育成のためには、日本独自の美德「思いやりの心」を守りながら、自己主張力を鍛える場を創っていくことが必要であると主張。その提言のオリジナリティと説得力、育成策の具体性が評価を集めた。

●優秀賞

2030年バイキング式社会の実現へ向けて

金 道慶（きん とぎょん）さん（神戸朝鮮高級学校 3年）

（評価ポイント）

2030年の活気ある日本社会のためには、ライフステージに応じて多様な働き方が柔軟に選択できる社会、「バイキング式社会」の実現が必要であるという力強い主張には、高校生らしい夢や視野の広がりを感じられた。それによって実現される、年齢、性別、学歴、国籍等に左右されない多様な働き方の記述も、具体性に富んでいて分かりやすい。タイトルもユニークである。

●コンテストの概要

タイトル NRI 学生小論文コンテスト 2015

募集期間 【高校生の部】 2015年7月1日（水）～9月14日（月）

【大学生・留学生の部】 2015年7月1日（水）～9月5日（土）

対象 全国の大学院生、大学生、留学生、高校生

テーマ 世界に向けて未来を提案しよう！

2030年に向けて－「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」

審査のプロセス (1) 事務局による予備審査

(2) NRI グループの役職員、120名による一次審査

(3) 審査委員による二次審査（最終審査）

※すべての審査プロセスは、応募者の学校名、名前などの属性を秘匿したうえで、厳正に行っています。

審査委員 審査委員長 谷川史郎（NRI 理事長）

特別審査委員 池上彰氏（ジャーナリスト・東京工業大学教授）

最相葉月氏（ノンフィクションライター）

審査委員 NRI 役職員 5名

なお、大学生の部・留学生の部では、大賞に賞金 50 万円、優秀賞および特別審査委員賞に 25 万円、奨励賞に 5 万円、また高校生の部では大賞に賞金 30 万円、優秀賞および特別審査委員賞に 15 万円、奨励賞に 3 万円が贈呈されます。